

東京日々新聞



疑ふ心は情は深き中仙道の深谷とのみ歌の短歌は馴染て通ひ。
 談實家へも談と整やどく吾家の妻沼村へ引寄せ一約束の地也よ
 情郎のありとさき客い勃然とあつて説責まはたは手替の
 妙術りて死で識と明とんと云ふ奥の手と試て
 見もやと。俱は死んと華をよ粧ひ出て
 或る蘭若の妻所へ到て合掌し男の死出
 の米内とせんと短刀腹へ突入れの周章と
 髑髏逃し出せぬと笑て呼止りの之れ
 糊江の細工のて互に却色と傳奇
 あり若く過つて終るまは貴重
 の命を断る至。疑は深き中
 野蠻まあらはれや此話取
 故人の句よるうく。

白雲や春分別
 那らて春分後

轉々空玄記

神
 具足屋
 渡辺彫米

蕙齋
 芳樂

